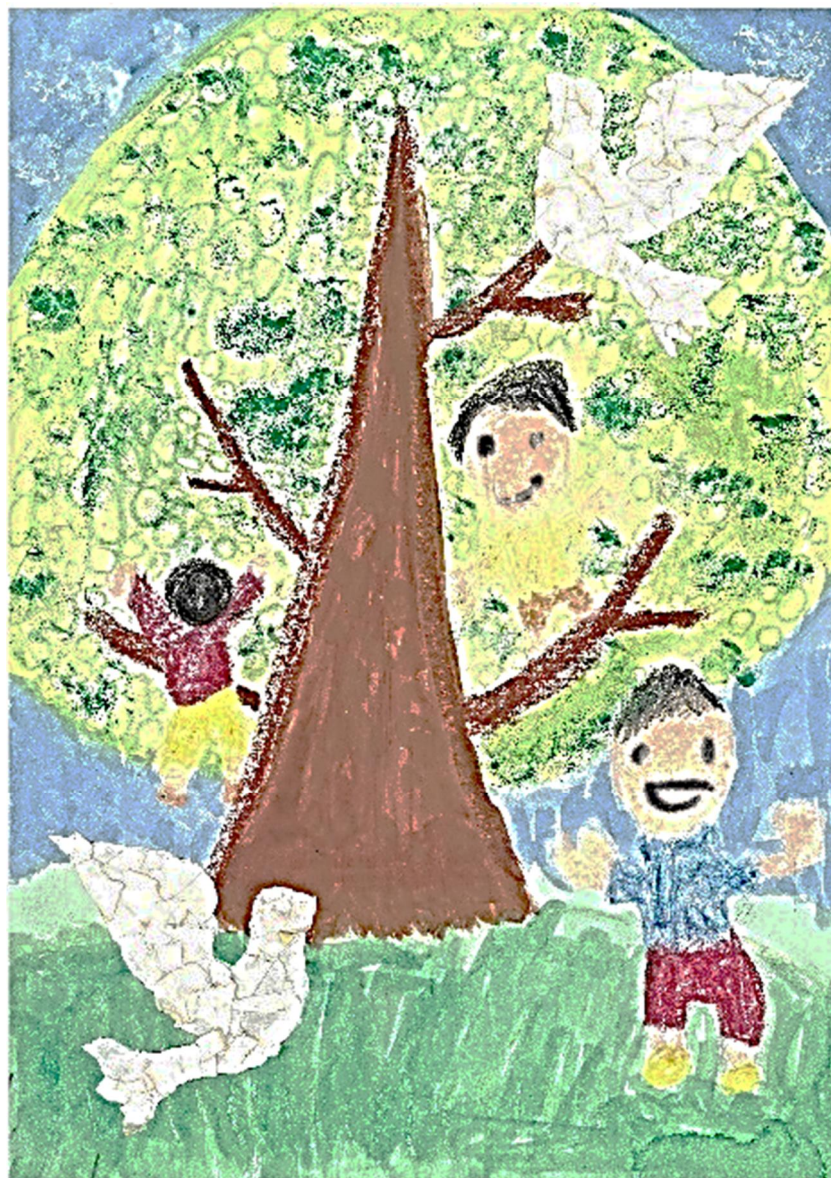


令和6年度 浦安市平和事業実施報告書



浦安市 市民經濟部 地域振興課

- 目 次 -

はじめに	1
1 平和学習青少年派遣事業	2
2 小・中学校平和学習事業	6
3 横断幕及び電光掲示板での啓発	9
4 千羽鶴の献納	10
5 原爆展	11
6 子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト2024	12
7 黙とうの呼びかけ	16
8 親子平和バスツアー	16
9 国際平和デー記念行事	17
10 平和のつどい2024	17
11 「平和への願い」カレンダーの作成	19
資料編 平和学習青少年派遣事業派遣生感想文	21
非核平和都市宣言	43

はじめに

本市では、昭和60年3月29日に非核平和都市を宣言して以来、非核平和理念の市民への浸透と平和意識を高めることを目的に幅広い平和事業を行っています。

令和6年度は、平和学習青少年派遣事業において、長崎市に市内中学生18名を派遣しました。また、7月下旬から9月上旬までの期間、市役所において被爆写真パネルや被爆被災物品などを展示する「長崎原爆・平和展」の開催や、9月から翌年2月にかけて、浦安被爆者つくしの会(※)の方々の協力による小・中学校平和学習事業などを実施しました。

今後も市民一人ひとりに平和の尊さを伝えていくため、工夫を施しながらできる限り様々な非核平和事業を実施してまいりますので、御協力をいただければ幸いです。

終わりに、本市の平和事業にご協力いただきました皆様に、御礼を申し上げます。

※浦安被爆者つくしの会

広島市又は長崎市の原爆被爆体験者（2世会員含む）などが平和諸活動に参加し、会員の健全なる親睦と友愛の絆を築いて発展していくことを目的として、平成5年に発足した団体。

会員の高齢化が進む中で、核の恐ろしさや平和の尊さを、青少年をはじめとする市民に対して継続的に伝え、市民の平和意識の高揚に貢献している。

特に市が推進する非核平和事業について深く認識し、平成13年度から毎年市と共に、自らの被爆体験を語る被爆体験講話を市内の小・中学校で実施している。

1 平和学習青少年派遣事業

■ 実施内容

次世代を担う青少年が、被爆の実相と平和の尊さを知り、戦争や核兵器のない平和な未来を築くことを目的に、市内中学生18名を原爆が投下された日に合わせて長崎市へ派遣しました。

長崎市では、「原爆資料館」や「被爆建造物等」の見学、「平和祈念式典」や、全国から集まった青少年との交流や相互理解を深める「青少年ピースフォーラム」に参加しました。

※派遣生の感想文は23ページ以降に資料編として掲載しています。

■ スケジュール（概要）

区 分	日 程	内 容
第1回 オリエンテーション	令和6年6月29日 午前9時30分～正午	自己紹介、事業概要説明、浦安被爆者つくしの会による平和学習、アイスブレイクなど
第2回 オリエンテーション・結団式	令和6年7月25日 午前10時～午後4時30分	派遣スケジュール説明、グループワーク、千羽鶴の作成、結団式（市長・教育長表敬訪問）、講演の聴講など
長崎派遣	令和6年8月7日～8月10日	原爆資料館・平和公園見学、青少年ピースフォーラムの参加など
報告会	令和6年9月1日	平和イベント「平和のつどい2024」で報告

■ 派遣生（浦安市平和使節団） 市内中学生18名

学校名	氏名	学年	学校名	氏名	学年
浦安中学校	矢野 葵	3年	美浜中学校	渥美 駿祐	2年
	三浦 葵	3年		宮入 果穂	2年
堀江中学校	相良 果央	2年	日の出中学校	飯野 瑚愛	2年
	加瀬 翼	3年		西出 美羽	2年
見明川中学校	柴田 結衣	3年	明海中学校	山村 あかり	2年
	牛尾 琉	3年		大谷 楓	2年
入船中学校	山田 航士朗	2年	高洲中学校	辻川 花緒	2年
	大森 晴喜	2年		今泉 栞寧	2年
富岡中学校	石井 一花	2年	引率：地域振興課職員 3 名 看護師 1 名（長崎市内のみ）		
	中川 栞那	2年			

■ オリエンテーション（事前学習）

長崎市へ派遣する前に事前学習を2回行いました。広島市・長崎市に落とされた原爆のことや、戦争についての学習、平和シンポジウムの準備、市長・教育長との結団式などを実施しました。

◇ 第1回オリエンテーション



自己紹介



浦安被爆者つくしの会による
平和学習



アイスブレイク

◇ 第2回オリエンテーション



事前学習



結団式

■ 派遣行程表

日程	時間	内容
8/7（水） 1日目	8:15	浦安市役所集合
	8:30	市のバスで、羽田空港へ
	10:50	羽田空港発（機内で昼食）
	12:40	長崎空港着（リムジンバスで移動）
	14:15	長崎駅着
	15:20～16:20	軍艦島デジタルミュージアム見学
	18:00	ホテル着 夕食まで自由時間
	18:30	夕食（ホテルにて）／研修
	22:00	就寝
	6:30	起床
8/8（木） 2日目	7:00	朝食
	7:55	ホテル出発（路面電車で移動）
	9:00～11:00	班別フィールドワーク（平和案内人により、平和公園周辺の被爆建造物等を巡る）
	11:10～12:10	原爆資料館見学
	12:15	昼食
	14:00～17:30	青少年ピースフォーラムへの参加 ② 被爆体験講話 ② 平和学習フィールドワーク（被爆建造物や慰霊碑などの見学）
	18:00～19:30	青少年ピースフォーラム交流会
	21:00	ホテル着 〓 明日の確認
	22:00	就寝



軍艦島デジタルミュージアム



フィールドワーク



平和公園



路面電車

日程	時間	内容
8/9（金） 3日目	7:00	起床
	7:30	朝食
	8:30	ホテル出発
	9:30～11:45	青少年ピースフォーラムへの参加（午前） ③平和祈念式典に参列 （2班に分かれて、平和公園または、出島メッセ長崎にて参列）
	12:00	昼食
	14:00～16:00	青少年ピースフォーラムへの参加（午後） ④平和学習 意見交換 （全国から集まった青少年とテーマに沿った意見交換を行い、これからの平和について考える）
	18:10	ホテル着
	18:30	夕食（ホテルにて）／研修
	22:00	就寝
8/10（土） 4日目	7:00	起床
	7:30	朝食
	9:40～10:40	稲佐山展望台見学
	11:50	長崎空港着・自由行動（昼食）
	13:25	長崎空港発
	15:10	羽田空港着
	17:00	浦安市役所到着・解散



千羽鶴献納（平和記念公園）



青少年ピースフォーラム



平和祈念式典

2 小・中学校平和学習事業

■ 実施内容

次第に風化していく原爆・戦争の記憶を今にとどめ、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さを若い世代に伝えるため、小・中学生に対し、「被爆体験講話等」及び「非核平和パネルの展示」を実施しました。

「被爆体験講話等」では、小学校は対面式、中学校はDVDにより実施しました。対面式では、浦安被爆者つくしの会による講話や朗読劇を行いました。

DVD の内容は、 ①浦安市の非核平和事業の紹介 ②浦安被爆者つくしの会による被爆体験講話 ③浦安市平和使節団 OB・OG による平和メッセージです。

■ 実施校

- ・ 被爆体験講話等 23 校/26 校中 学習人数 2,024 人
- ・ 非核平和パネルの展示 26 校/26 校中

小学校（令和6年度）

No.	学校名	被爆体験講話				非核平和パネルの展示
		方法	実施日	学年	学習人数	貸出期間
1	浦安小学校	対面式	12月3日	6	49	11月19日～11月29日
2	南小学校	対面式	12月9日	6	150	12月9日～12月13日
3	北部小学校	対面式	1月24日	6	133	1月27日～1月31日
4	見明川小学校	対面式	9月17日	6	90	9月17日～9月20日
5	富岡小学校	対面式	12月17日	6	54	12月9日～12月13日
6	美浜南小学校	対面式	9月10日	6	53	9月9日～9月13日
7	東小学校	対面式	2月6日	6	100	2月6日～2月7日
8	舞浜小学校	対面式	12月12日	6	91	12月9日～12月13日
9	美浜北小学校	対面式	1月29日	6	21	1月27日～1月31日
10	日の出小学校	対面式	12月18日	6	65	11月25日～12月2日
11	明海小学校	対面式	1月14日	6	45	1月9日～1月14日
12	高洲小学校	対面式	1月21日	6	61	1月14日～1月17日
13	日の出南小学校	対面式	12月13日	6	70	12月5日～12月11日
14	明海南小学校	対面式	1月23日	6	24	1月20日～1月24日
15	高洲北小学校	対面式	1月30日	6	65	1月20日～1月24日
16	東野小学校	対面式	12月16日	6	80	12月16日～12月20日
17	入船小学校	対面式	11月15日	6	92	1月21日～1月22日
合計					1,243	

中学校（令和 6 年度）

No.	学校名	被爆体験講話				非核平和パネルの展示
		方法	実施日	学年	学習人数	貸出期間
1	浦安中学校	DVD	7月2日～9日	3	200	9月2日～9月6日
2	堀江中学校	DVD	2月14日～2月20日	1	220	9月24日～9月27日
3	見明川中学校	DVD	12月17日	2	78	12月16日～12月20日
4	入船中学校	実施なし				9月17日～9月20日
5	富岡中学校	DVD	2月26日	1	122	9月30日～10月4日
6	美浜中学校	DVD	2月20～2月21日	3	101	9月2日～9月6日
7	日の出中学校	実施なし				9月17日～9月20日
8	明海中学校	DVD	10月21日	1	60	10月21日～10月24日
9	高洲中学校	実施なし				9月2日～9月6日
合計					781	



浦安被爆者つくしの会 被爆体験講話の様子

3 横断幕及び電光掲示板での啓発

■ 実施内容

「核兵器のない平和な世界を」と記した横断幕を浦安駅前歩道橋、新浦安駅北口歩道橋、舞浜駅北口歩道橋に掲出しました。また、市役所電光掲示板においても啓発しました。

■ 期間

横断幕・電光掲示板：令和6年7月16日～9月13日

■ 場所

- ・横断幕：浦安駅前歩道橋、新浦安駅北口歩道橋、舞浜駅北口歩道橋
- ・電光掲示板：浦安市役所



浦安駅前



新浦安駅前



電光掲示板



舞浜駅前

4 千羽鶴の献納

■ 実施内容

市民より、平和の千羽鶴を募集し、広島市・長崎市へ献納しました。

■ 募集期間

令和6年6月17日～7月16日

■ 献納数

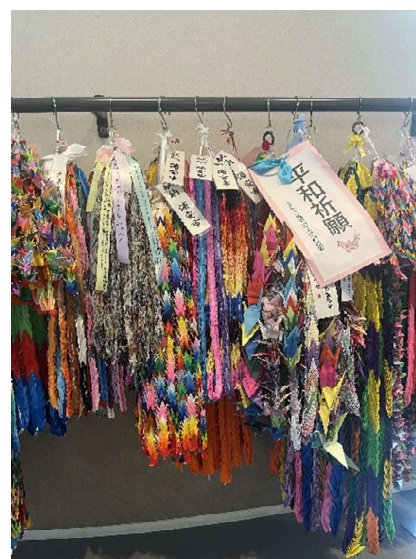
約70,700羽



広島に献納した千羽鶴



長崎に献納した千羽鶴



5 原爆展

■ 開催内容

原爆の悲惨さ等を伝えることを目的に、長崎市と共催で、「長崎原爆・平和展」を開催しました。

また、一部の期間において、長崎市解説員及び浦安被爆者つくしの会の協力のもと、来場された市民に対し、展示物等の説明をしました。

■ 開催期間・時間

令和6年7月18日～9月1日（土曜日及び祝日を除く）
午前8時30分～午後5時

■ 開催場所

市役所1階市民ホール

■ 展示内容

- ・ 被爆被災物品
- ・ オバマ元米国大統領寄贈の折り鶴
- ・ ハンズオン被爆瓦
- ・ 大型写真(被爆前・後・爆心地付近パノラマ写真)
- ・ 核兵器禁止条約パネル
- ・ 長崎市の取り組み(継承事業)ポスター
- ・ 原爆被災写真パネル・ポスター
- ・ 平和関連閲覧図書
- ・ 原爆関連映像の上映
- ・ 来場者アンケートコーナーの設置
- ・ 浦安市の啓発品
- ・ 浦安市平和カレンダー



原爆展の様子



6 子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト 2024

■ 実施内容

市内の小・中学生を対象に、「私にとっての平和」をテーマとした絵画を募集しました。

令和6年度は、95点の作品の応募がありました。

応募いただいた全作品は、市役所市民ホールで展示しました。

また、受賞作品は、平和事業の啓発イベント等で配布する啓発グッズや小・中学校で配布する平和カレンダーに印刷して活用しています。

応募資格：令和6年11月1日時点で6歳以上15歳以下の浦安市民

■ 実施期間

募集期間：令和6年8月1日～9月30日

展示期間：令和7年1月16日～1月30日



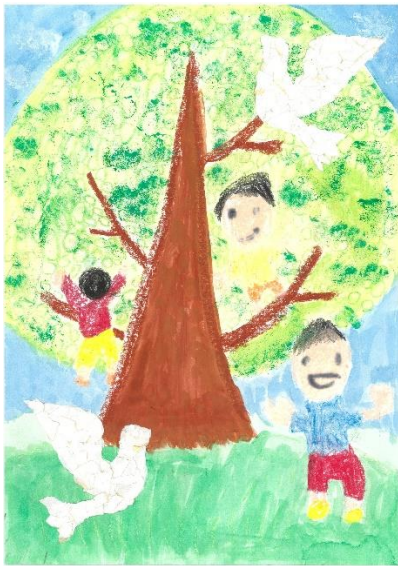
展示会の様子



表彰式の様子

受賞作品
【浦安市受賞作品】

※年齢は令和6年11月1日時点



最優秀賞（市長賞） ^{みずぐち}水口 ^{ゆうき}結稀 さん（6歳）

【作者のメッセージ】

おおきな木のまわりで きょうだいとたのしく
あそんでいるところです。

いつまでもみんなで えがおですごしたいという
ねがいをこめました。



優秀賞 ^{ますこ}増子 ^{かな}菜菜 さん（14歳）

【作者のメッセージ】

遠くに飛んでる鳩を見て、「いつか空を飛びたい」な
んて言ってみたいものである。空想的な夢を誰かに共
有すること、話すことは簡単ではない。

きっと自分は誰でもいいのだ。

日本人でも白人でも黒人でも。でも誰もがそうとは限
らない。だから私は描いた。

私の思っている世界を知ってほしいから。

差別も偏見もなく、ただ何にもとらわれない子供が、
ぼんやりと鳩をながめる平和な世界を。

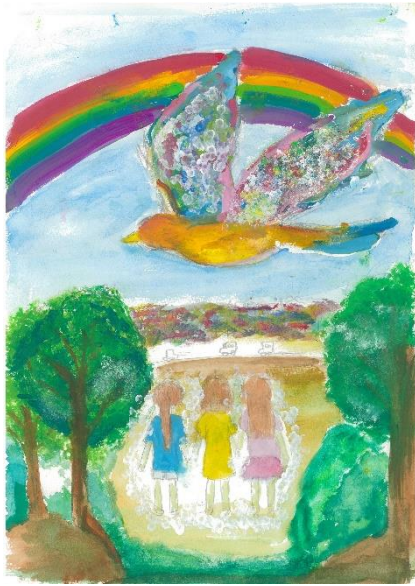


優秀賞 ^{かわかみ}川上 ^{しほ}詩歩 さん（12歳）

【作者のメッセージ】

真ん中に平和の象徴である大きな鳩をかき、その中で世界
中の友だちが笑顔で手をつないでいるようすをかきまし
た。鳩の周りに国旗をつなげてかいて、「幸せと平和をい
つまでも運んでくれますように」という思いを入れました。
人だけでなく全ての動物が幸せになるために周りにか
いた植物の花言葉に「平和」「友情」「幸せ」「夢」とい
った意味のあるものをかきました。

世界中に幸せと平和をいつまでも運んでくれますように。



入賞 ^{よしざわ}吉澤 ^{みさき}美咲 さん（13歳）

【作者のメッセージ】

平和の世界をあらわすために私は鳥が一番だ
とおもいました。鳥は白い鳥が一般的ですが、
平和をあらわすためにあたたかないろいろな
色をたくさんいれて夢をあらわしました。そ
して下には3人の女の子が町をみて自分の町
は平和なことをあらわしました。木や植物を
いれてゆたかにしました。



入賞 ^{なかじま}中島 ^{せな}星奈 さん（9歳）

【作者のメッセージ】

せんそうがないまちです。
大きな木の下で 大人も子どももどうぶつも
あんしんしてゆっくりおひるねができる
おだやかなまちです。

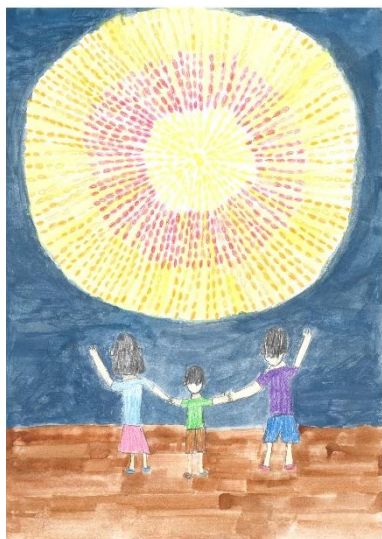


入賞 ^{やまだ}山田 あかり さん（10歳）

【作者のメッセージ】

テレビでウクライナやガザ地区のニュースを
見るたびに、私よりも小さな子どもたちの惨
状を思い胸が苦しくなります。世界からせん
争がなくなり、世界中の子どもたちが私と同
じ様に毎日笑顔で幸せにくらせる様に心から
願っています。

【平和首長会議受賞作品】



平和首長会議 提供

特別賞

おおた わく
太田 和玖さん（9歳）

【作者のメッセージ】

花火を見るととてもやさしいきもちになるので、
家ぞくで見ているところをかきました。

※平和首長会議とは、広島・長崎両市が提唱した「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」の趣旨に賛同する世界各国の都市で構成された組織です。世界166か国・地域の8,200を超える全加盟都市の6歳以上15歳以下の子どもたちを対象に、令和6年度は“私にとっての平和”をテーマにした絵画コンテストを実施し、本市上位作品を応募したところ、1作品が受賞しました。

7 黙とうの呼びかけ

原爆死没者のめい福と核兵器の廃絶を願い、広島市・長崎市の原爆投下日における黙とうの実施について、広報うらやす（8月1日号）や、市公式X（エックス）、市役所電光掲示板・庁内放送において、呼びかけを行いました。

8 親子平和バスツアー

■ 実施内容

昭和29年3月1日、太平洋のマーシャル諸島にあるビキニ環礁で、アメリカが行った水爆実験によって被害を受けた木造のマグロ漁船やその付属品、関係資料を展示している「東京都立第五福竜丸展示館」を見学しました。

また、戦中・戦後の人々の暮らしを実物展示した「昭和館」を見学しました。

移動中のバスの中では、浦安被爆者つくしの会から被爆体験のお話をさせていただきました。

■ 実施日時

令和6年8月2日 午後0時30分～午後5時

■ 見学先

- ・ 東京都立第五福竜丸展示館(東京都江東区)
- ・ 昭和館(東京都千代田区)

■ 参加者数

15組36名（保護者15名、子ども21名）

9 国際平和デー記念行事

■ 実施内容

「国際平和デー」とは、世界の停戦と非暴力の日として国連が定めた、平和の記念日（毎年9月21日）です。本市においても、記念行事に賛同し、令和2年度から実施しています。

本市では、9月21日の午後0時30分頃に、市内にある大蓮寺や協力ホテル、学校、大型商業施設において平和の鐘を鳴らしたりするなど、市民の方に平和について考えていただくよう呼びかけました。

10 平和のつどい 2024

■ 開催内容

非核平和事項業の一環として、次第に風化していく原爆・戦争の記憶に今にとどめ、戦争を知らない世代へ平和の尊さ、戦争の悲惨さを伝えることを目的に開催しました。

■ 開催日時

令和6年9月1日 午後1時30分～3時30分

■ 開催場所

市役所1階市民ホール

■ 来場者数

113人

【プログラム】

第1部 令和6年度平和学習青少年派遣事業報告会

令和6年8月7日～10日に浦安市の青少年を代表として、長崎市に派遣した浦安市平和使節団により、派遣事業を通して学習したこと等を報告しました。

【出演】浦安市平和使節団 10名

第2部 被爆体験講話

(公財)長崎平和推進協会継承部会員の被爆者に、講話していただき、講話後は、平和使節団より講話者に向けて質問を行いました。

【出演】講話者 三瀬 清一郎氏、浦安市平和使節団 3名

第3部 朗読劇

浦安被爆者つくしの会の活動で行っている朗読劇を、浦安市平和使節団により披露しました。

【出演】浦安市平和使節団 5名



第1部 平和学習青少年派遣事業報告会



第2部 被爆体験講話



第3部 朗読劇

11 「平和への願い」カレンダーの作成

「子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト2024」の受賞作品を掲載した年度カレンダーを作成し、市内小・中学校、高等学校、大学、公民館等へ配布しました。

■発行部数

600部（B2サイズ）

子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト2024 受賞作品

私にとっての平和

※年齢は2024年11月1日時点になります

最優秀賞(市長賞) みずから ゆうき さい
水口 結希さん(6歳)

優秀賞 すすこ かんた さい
増子 菜葉さん(14歳)

優秀賞 かわかみ しほ さい
川上 詩歩さん(12歳)

入賞 ふじざき みさき さい
吉澤 美咲さん(13歳)

入賞 なかじま せな さい
中島 星奈さん(9歳)

入賞 やまだ 山田 あかりさん(10歳)

平和賞(特別賞) おきた たく さい
太田 和玖さん(9歳)
※特別賞は、平和賞を兼ねる。

浦安市は、1985年3月に「非核平和都市宣言」を行い様々な平和への取り組みを行っています。

2025	2025	2025	2025
4	5	6	7
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

2025	2025	2025	2025
8	9	10	11
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

2025	2026	2026	2026
12	1	2	3
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

8月6日 | 広島原爆の日 8月9日 | 長崎原爆の日 8月15日 | 終戦記念日 には、1分間の黙祷をお願いします。

9月21日 | 国際平和デー は、国際連合が定めた平和記念日です。

資料編

■ 平和学習青少年派遣事業派遣生 感想文

「先人たちが望んだ平和な時代を生きて想う事」

私は8月7日から10日にかけて浦安市少年平和使節団として長崎を訪れました。戦争や原爆の悲惨さと実態を学び平和の尊さについて考え、意見を交換して深めました。



私は戦争や平和について本気で向き合っていたことがありませんでした。しかし近年の世界情勢を見ていると不安だけが積もり自分も何か平和のために出来る事が無いのかを考えこの事業に臨みました。

私は4日間を通して特に印象に残った事が3つあります。

一つ目は、班別フィールドワークで訪れた城山小学校です。まず原爆落下中心地から歩いていけるほど近くにあったのにも関わらず校舎が全壊しなかったことに驚きました。平和案内人の方から当時の光景を詳しく聞かされた時に、原爆が一瞬で破壊した日常がどれほど尊い事なのか実感しました。

二つ目は、青少年ピースフォーラムで同年代の皆様と平和について意見を出し合った事です。戦争から、喧嘩と言うような身近なことに置き換えて、起きてしまう原因と、どのように減らして行けるのか考えました。答えは一つではありませんが、平和である事を強く願っている事に変わりはないと共有出来た場です。

三つ目は、平和祈念式典に参列した事です。特に、長崎市長による長崎平和宣言が印象に残りました。長崎市長の強く訴えかける様な話し方に感動し、心が震えました。また「1人1人は微力であっても無力ではない」という言葉から改めてこの経験を次世代に伝えていかなくてはならないと実感しました。

以上の三つのみならず、4日間で学んだ事のすべてが平和への想いと繋がり強くしてくれました。4日目に訪れた稲佐山から眺めた長崎市の町並みは当時の悲惨な光景を思い出させませんでした。それは今日までの人々の努力の結晶であり、ありふれた景色も当たり前的事ではないと考えるようになったきっかけでした。長崎をゼロから人々の活気や豊かな緑あふれる街に取り戻してきた人々の様に熱意と行動力を持って平和を伝承していくと今回の派遣事業を通して決意しました。

「時代を超えて理解する」

私は8月7日から10日の3日間浦安市平和使節団として長崎県を訪れ、たくさんのことについて学びました。

私は社会科の歴史の分野が好きで戦争やその時代のことについてとても興味がありました。ですが戦争についてのイメージはとても怖いもので戦争を体験していない私たちでも想像することができます。

実際に長崎を訪れ、印象に残ったことは三つあります。

一つ目は一日目に見学をした軍艦島デジタルミュージアムについてです。ここにはたくさんの資料や小さくした模型VRなどの様々なものがありました。実際の当時中学生だった方からお話をしてもらい、写真もあったため当時の情景を想像しやすかったです。

二つ目は二日目に行った、班別フィールドワークについてです。班別フィールドワークでは平和公園周辺を平和案内人によるガイドの元進んでいきました。平和公園の中で一番目立っていたのが、原爆落下中心地に建っている三角柱のものです。ここは長崎に原爆が落とされた上空と同じ位置にあり案内人の話を聞くと当時の人たちがとても悲慘な目にあったということが身にしみて感じました。

三つ目が三日目に参列した平和祈念式典です。各学校から一名しか参列することができず私は長崎メッセで平和祈念式典を見ていました。長崎を訪れる前にオリエンテーションで作った千羽鶴を飾りました。式典ではたくさんの方が参列していてこのようなことが再び起こらないようにしようと強く思いました。

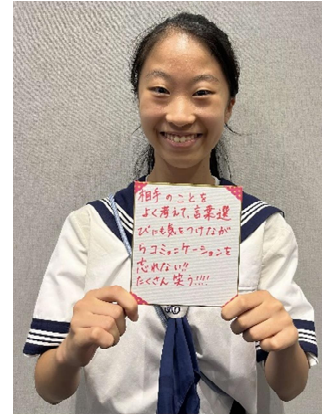
長崎市長が言っていた「地球市民」という言葉が素敵だなという風に思い、私たち地球市民は平和についてそして戦争についてもっと理解しあえるとより良い世界になっていくと私は思いました。

長崎派遣を通して私は平和の尊さ、戦争の悲慘さについて今まで以上に知ることができました。ちゃんと学校に通えていること、今をこうして生きていることに感謝し、このような貴重な経験を大事にして自分にできることをやっていこうと思います。



「長崎派遣を終えて」

私は八月七日から十日の四日間に向け、浦安市平和使節団として被爆地である長崎市を訪問しました。実際に長崎市を訪問し新たに学んだこと、考えが深まったことがたくさんあります。多くの貴重な経験ができた中で特に印象に残っていることが二つあります。



一つ目は、二日目の原爆資料館の見学です。まず、資料館に入ってすぐに十一時二分で止まっている時計がありました。長崎市に原子爆弾が落とされたのは、一九四五年（昭和二十年）の八月九日、午前十一時二分です。その時計は原子爆弾が落とされた瞬間に止まり、今もずっと止まったままです。たった一発の原子爆弾によって当たり前の毎日、当たり前の日常が壊され、多くの命が奪われてしまったことをこの時計から感じることができました。

二つ目は、三日目の青少年ピースフォーラムの平和学習です。自分と同じ世代の人たちと一緒に平和について考えたとき、違う土地、違う環境で育ってきたけれど、戦争や原子爆弾のことを学んで感じることや考えることはどれも納得するものばかりで、共感したり、他の人の意見に付け足したりすることもありました。その場において感じたのは、私たちは違う土地、違う環境で育ってきたけれど、このように全員がよく考えて意見を持ち、それを自分の意見として共有することができれば、納得したりさらに自分の意見を伝えたり違う意見だったとしてもより考えが深まっていくと思いました。だから、いま世界で起きている争いも国や地域の代表者などは視野を広げてよく考え、まずは自分の意見を持ちそれをおしつけたり先に行動してしまうのではなく、言葉で伝え、最善をつくせるように全員が一緒に考えていくことが大切だと思いました。

この長崎派遣で、まずは自分の近くにいる家族や友だちとよりよい関係を築いて平和の輪を広げていくことが大切だと改めて考えることができました。それがいま私たちにできる一番大切なことだと思います。この四日間で学んだこと考えたことを色々な人に伝え、同じ歴史が繰り返されることのないように小さいことから行動していこうと思いました。

「戦争の悲惨さ」

僕は8月7日から10日にかけて、浦安市平和使節団の一員として長崎を訪問しました。

実際に長崎に行く前にも学校の授業で戦争や原爆の恐ろしさについて学ぶ機会がありましたが、実際に太平洋戦争の被災地となった長崎を訪れたことで、平和の尊さと戦争の悲惨さについて改めて知ることが出来た良い機会となりました。



今回の長崎派遣の中でも特に印象に残ったことが3つあります。1つ目は原爆資料館です。そこでは戦争の悲惨さを象徴するような展示物が沢山ありました。原爆の熱で溶けた瓶や水を求め歩き回る人の絵は、教科書や本で見るより原爆の恐ろしさを実感することができ、この体験を後世に伝え、今後このような無残な出来事を起こしてはならないと強く感じました。

2つ目は平和祈念式典です。この式典は日本の方々だけではなく外国の方々も数多く参列していることから、原爆という兵器がこの世にあってはならない、悲しみを生むだけの凶器なのだと世界中の人々が認識している、ということが伝わってきました。その後の長崎市長の平和宣言からは、平和への願いが強く感じられ、この思いを世界中に発信することで平和の願いがより多くの人たちに伝わり、今この瞬間も戦争をしている人たちに伝わって欲しいと心から願いました。

3つ目は平和学習です。今まで戦争について学んだ時に考えたことなどについて、実際に意見交換し、戦争を二度と起こさないようにするために自分たちはどのようなことができるのか、深く真剣に考えることが出来ました。

僕はこの4日間の長崎派遣を通じ、戦争の悲惨さだけでなく、原爆は一瞬で多くの人の命を奪う不要な兵器であり、平和への強い願いを後世に繋げるのだ、というたくさんの人達の強い望みがひしひしと伝わり、僕自身もこれらの願いを後世に伝え、改めて平和な世界、戦争のない世界、原爆が二度と使われることのない世界をつくるためにどうすれば良いのかを考えながら生きていきたいと思いました。

「誰もが手を取り合える世界を」

8月9日、11時02分。

長崎に原子爆弾が投下され、一瞬で多くの人の命が、大切なものが、未来が奪われました。

あの日から79年経ったその場所に、私は今回、浦安市平和使節団の一員として訪問しました。

私が初めに目にした長崎は、原爆からの復興を遂げた美しい街でした。人々が笑い合い、穏やかな時が流れる、平和な都市そのものでした。

しかし、ふと目をやると、至るところに79年前の原爆の爪痕が残っていたのです。

傾いてしまった鳥居、幹の中に飛んできた瓦礫が残るクスノキ、当時のままの姿で佇む防空壕。復興した街にはっきりと残っていたそれらは、まるで時間が止まってしまったかのようで、とても衝撃的でした。同時に、戦争や原爆投下は本当にあったことなのだというのを改めて感じました。

また、平和学習の中で原爆資料館も見学しました。原爆によって破壊された長崎の街には、写真越しでもわかるほど、残酷で痛々しい光景が広がっていました。展示の一つ一つから、そこに居た人々の苦しみが伝わってくるようでした。実際に投下された原爆の模型は、自分が考えていたよりもはるかに大きく、当時の様子を想像するだけで胸が締め付けられるような気持ちになりました。資料館に飾られた全てのものが、実際にこの街で起こったという恐ろしい事実をはっきりと証明していました。

しかし、これらの物は全て、多くの人の努力と、「過ちを二度と繰り返さない。」という強い意志のもとに“残されている”ということを忘れてはならないと思います。怖いからと言って目を背けるのではなく、我が国で起こった現実に向き合う。そして、私には何ができるのかをこれからも考えていきます。

私の中で、特に心に残っている言葉があります。

「噴き上げる巨大なきのご雲。

なにが起きたのか。

人びとはどうなってしまったのか。



雲の下の真実を、知ってください。

——忘れないでください。

——伝えてください。」

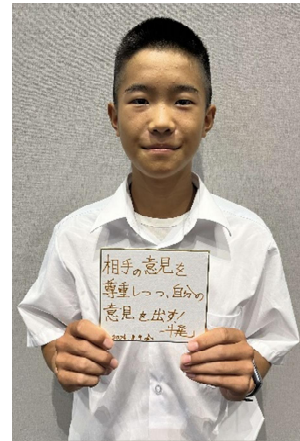
これは、原爆資料館で一番初めに展示されている言葉です。

ただ知るだけではいけない。ここで学んだことを、忘れてはならない。そして私が、伝えていかなければならない。この言葉を目にして、そう強く感じました。

改めまして、この度は貴重な機会を頂き、本当にありがとうございました。

「世界平和に向けて」

僕は8月4日から7日にかけて長崎県を訪問しました。僕がこの派遣事業に参加した理由は、世界中で紛争が活発化し、いつ核兵器が使用されてもおかしくない今、唯一の被爆国の一員として世界平和を達成するには何ができるかをみんなで考えたかったからです。



僕が派遣事業の中で特に印象に残ったのは3つあります。

1つ目は、2日目に見学した長崎原爆資料館です。原爆資料館に入ると目の前には原爆が炸裂した11時2分で止まっている時計がありました。その奥には、実寸大のファットマン(原子爆弾)の模型や、実際に手で触れる溶けた瓶などがありました。それを見て僕は、改めて原子爆弾の恐ろしさを実感しました。

2つ目は、3日目に行われた長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典です。平和祈念式典の中でも、長崎市長による長崎平和宣言の「私たちは地球という大きなまちに住む地球市民です。」という言葉に感銘を受けました。平和祈念式典が開催された平和公園には平和の象徴とされる平和祈念像や長崎の鐘、世界中から送られてきた平和の思いが込められた像などがありました。そこでは世界平和に向かって世界中が動いていることを実感させられました。

3つ目は、4日目に見学した稲佐山です。稲佐山から見下ろした景色は原爆資料館で見た模型その通りでした。そのため、ここで起こったことが頭に入ってきてやすかったです。そこに原子爆弾が落とされたことを想像すると、とても胸が痛く、原子爆弾の破壊力が思い知らされました。

僕はこの平和学習を通して、世の中が平和であることや、話し合いで解決することの大切さを学ぶとともに、戦争の恐ろしさ、残酷さを実感することができました。そのため、これから意見の違いや、対立が起こってしまった場合は話し合いで意思の合致を図っていきたいです。また、この事の大切さをより多くの人に知ってもらい、平和についてともに考えていくために、後世に僕が学んだことを語り継いで行きたいです。

そして、世界平和が達成されることを心から願います。

この度、私は浦安市平和使節団として長崎市を訪れました。今回の派遣事業に参加した動機は広島での旅行で感じた事からです。広島で平和記念公園や原爆資料館を見学した際、11歳の私は大きな衝撃を受けました。当時の私は感じた事を自分の中に閉まっているだけで何か行動をする、という事が出来ず心残りでした。そして、今回の長崎派遣の話しを耳にした時に、平和や戦争について学び直し、何か平和や戦争の為に小さな事でも行動すると決心し派遣事業に参加させていただきました。



4日間の様々な体験の中で私が感じた事は二つあります。

1つ目は原爆の与える影響の大きさです。平和祈念式典の様に被爆から79年経った今でも当時の出来事は伝承され続けています。式典以外に被爆地長崎市では平和公園内に被爆建造物、慰霊碑、原爆資料館など当時の悲惨さや様子を残した物があります。原爆資料館では当時の悲劇を表す展示物が沢山あります。例えば被爆時の写真や被爆によって変形した物、建物などです。私はその中でも酷くやけどされた皮膚の被爆者の写真が目に残りました。一生忘れる事の無い写真だと思います。この様に原爆は79年経った今でも多くの人の平和への想いや価値観に影響を与え続けています。これらの内容から原爆の影響は大きいと感じました。

2つ目は私達がこの出来事を伝承し続けなければいけないという事です。日本では被爆者中心に当時の出来事を79年間も伝承し続けています。これはあの様な悲劇を絶対に繰り返してはいけないという被爆者の想いです。ですが年々戦争を経験した方、被爆者の方の人数は減っています。なので今回の機会で学んだ私達や若者が被爆者の想いを引き継ぎ、伝承し続けなければならないと今回の派遣事業を通して強く感じました。

今回の長崎派遣で私の価値観は大きく変化しました。4日間の中で様々な体験をした事により、遠く感じていた原爆や戦争が少しでも近くにあると実感する事が出来ました。そんな原爆や戦争の恐ろしさをみんなに知ってもらうために自分が出来る事は、少しでも多くの人に当時の出来事を伝える事です。自分の出来る事は微力ですが無力ではありません。これまで繋いでくれた被爆者の方々の想いを受け継ぎ、1人でも多くの人に伝えていきたいです。

「知ることをやめない」

私は今回の三泊四日の平和学習青少年派遣事業を通して、今まで私の中で盲点だった「平和」について向き合えることができました。

四日間で特に印象に残ったことは三つあります。

一つ目は、二日目の平和案内人さんによるフィールドワークです。詳しい説明により、被爆当時の様子、被爆後の人々の生活の変化についてよく知れたと思います。旧浦上天主堂の遺構には、熱線によって黒くなった石・レンガ。爆風によってズレた土台。遺構の一部だけで原爆による恐ろしさを教えてくれました。

二つ目は、青少年ピースフォーラム。開会式では、全国から集まった派遣生、ピースボランティアを見て、こんなにも多くの人々・自治体が平和について向き合っているのだと感銘を受けました。

その後の被爆体験講話は、被爆体験した人からの話で、原爆によって容易く奪われた儚い日常について聴きました。改めて、今こうして生活できている日々は当たり前じゃないのだと実感し、被爆者の想いを胸に刻みました。

被爆者の高齢化によって原爆の恐ろしさ、想いを伝承する人が減少する中、私ができることは本派遣事業で知った被爆の実相をできるだけ多くの人に伝えることです。私は、この四日で「平和」の尊さを学びました。我々人類と地球が共存するには、平和が不可欠です。しかし現在、核兵器の保有数は約12,000と、少なくありません。また世界各地で戦争・紛争は起きるばかりです。私は、平和の実現にはまず「知る」ことから始まると考えます。世界の現状について知り、被爆した都市を訪れ知り、そこから平和の実現は始まると思います。我々が平和から目を背け、知ることをやめたら未来はありません。私はまず知り、そこから行動したいと思います。

今回市の代表として任命され、事業を計画し引率してくれた地域振興課の皆様、苦楽を共にした派遣生の仲間達、貴重な経験をさせていただき、とても感謝しています。

これをスタートラインと捉え、日々精進していきます。



「変わらないものの大切さを繋ぐ」

私は、今回の長崎派遣で学んだこと、強く思ったことがいくつかあります。

1つ目は、2日目の班別フィールドワークにて訪れた山里小学校です。爆心地から約七百メートル地点にあり、この学校に通っていた生徒の大体の千三百名程が、亡くなったそうです。



ですが、現在でもこの学校は使用されており、防空壕等の戦争時の名残りが多くありました。私達が訪れた時は、吹奏楽部が練習をしており、明るくまだ拙い音が外まで響いていました。

生活の中で原爆の恐ろしさを日々感じて過ごす長崎の無邪気な子どもたちによる平和の鐘を聞いているようで、伝えたいことが少しずつ形を成していきました。

2つ目は、3日目にあった平和祈念式典です。私は、出島メッセ長崎にて、中継を見ていました。色々な人の平和への思いが伝わってきて、長崎での濃い一日一日により、より深く考えられるようになりました。

式典の会場には、多くの千羽鶴が飾られていました。私達の住む浦安市からの千羽鶴のほぼ全ては、市民の方が折ってくださりました。そんな思いを、私達が伝えることによって、中学生だとしても、平和への行動ができるようにしたいです。

最近では、インターネット等が普及したことにより、暴言等を冗談でも言ってしまう人が増えてきています。そのような争いをなくし、私達の活動によって、傷付く人をもなくしていけるような場所を作っていきたいのです。

大袈裟に見えますが、少しずつでも考え方を変えていけるようにしたいです。未来とは違い、もう変えることのできない歴史をも大切に繋いで行きたいなと思います。自主的に平和への行動ができる社会を目指せるようになる日のため、もっと語って行きたいです。

「今を生きる」

私は平和使節団として長崎を訪れ、「核戦争」や「平和」について学んできました。実際に長崎を訪れる前は、戦争は自分とは縁のないものだと思っていました。しかし、長崎に実際に行って戦争について学ぶ中で他人事ではないと感じました。

私が長崎派遣を通して感じたことが二つあります。

まず一つ目が「核兵器の恐ろしさ」です。長崎の原爆資料館を訪れた際、たった一発の原子爆弾でこんなにも大きな被害が起きてしまうことにひどく驚きました。被爆後の写真や絵など、今の日本では到底考えられないことがわづか約80年前の日本で起きていたと考えると、とても恐怖を感じました。しかし、恐怖をこのまま終わらせてしまうのではなく、核戦争の悲惨さが忘れられないよう戦争のことについて理解し、後世に伝えていくことが大切だと思いました。

二つ目は「今を大切に」ということです。私が平和祈念式典に出席させていただいたときに、平和宣言の中で「長崎を最後の被爆地にしなければなりません」という言葉を聞きました。この言葉には、長崎や日本の平和だけでなく世界平和への強い願いも込められていると思いました。また、四日間たくさんの人のお話を聞く中で、「いつも通りの生活を送りたかっただけ」という言葉を何度か耳にしました。今も、戦争によって世界のどこかで「いつも通りの生活」を送ることができない国があります。現在の私たちのように、平和に毎日を過ごせていることが一番幸せなことで、同時にそれは当たり前のことではないことに気付きました。この平和の日々が未来永劫続くため、私に出来ることから取り組んでいくことで、世界平和への一歩になると思います。

私は長崎派遣を通して、今を生きる私たちが未来を守るため、戦争のことについて知り、自分事として考えることが大切だと思いました。戦争の悲惨さが忘れられないように、平和を守るために今回学んだことを後世に語り継いでいきたいです。



「次の時代へ継続していく」

僕は長崎へ行き、いろいろなことを学びました。今まで文章や写真でしか見たことのないものを実際に見ることは、とても貴重な体験になりました。軍艦島デジタルミュージアムや原爆資料館など実際に見たり触れたり、平和祈念式典をテレビではなく現地に行ってみることは人生で二度とない経験ができました。そして、その派遣事業の過程の中でともに行った仲間たちとともに、当時おきた残虐で悲惨な出来事を深く知りました。学校で習ったのは長崎、広島に原爆が落とされたことしか書かれていなかったのですが、その原爆によってどれだけの被害が出たのかを身をもって知らされました。この経験と知識が徐々に失われていっていると考え、寂しくなると同時にもっと危機感を持ってほしいと思います。教科書やニュースで知った情報は当時の出来事のほんの一部でしかないこと、また原爆、戦争を負の遺産として忘れないでほしいと強く願っています。本当に長崎広島で起きたようなことが今も行われているのです。戦争は今、ウクライナやパレスチナでも起きています。このままだと世界中で再び大規模な戦争が行われてたくさんの命が犠牲になるかもしれません。だから、僕たちが経験したことをもっといろいろな人に知ってほしいと思います。老若男女、日本人であろうとそうでなかろうとこの歴史を無駄にしてはならないと思います。自分たちは関係ないと思わずにもっと深く知り、たくさんの人に継承して行ってほしいと思います。

長崎ではたくさんの思い出ができました。原爆のことたくさん知り、経験しましたが人生で初めて飛行機に乗ったこと、行ったことのない場所でまだ知り合ったばかりの同じ派遣生たちと一緒にいろいろな体験をしたことはまた緊張をほぐす、いい経験になりました。お土産を一緒に買ったり、夜通しいろいろな話をしたり、朝ご飯を一緒に食べたりして、楽しかったです。確かに悲惨な出来事で、人間が犯した大きな過ちですが、多くの人に知ってもらうために身構えすぎずにもっと知ること、興味を持つことを大事にしてほしいと思います。

これを見ているあなたが、少しでも興味を持ってくれることを願っています。



「これからの平和」

私は今回の2024平和学習青少年派遣事業を通して大きく2つのことを学びました。

1つ目は今もなお続く原爆の被害です。私たちが訪問した長崎市は浦安市と変わらず活気のある街でした。ですが被爆をされた方たちは79年たった今でも原爆の影響で苦しんでいることを知りました。いつ病気を発症するかわからない状況で不安を抱えて生きていくことは想像を絶するつらさだと思います。平和のつどいでは戦争の恐ろしさや悲しみ、そして被爆者として生きることの苦しみを知りました。その中で原爆の恐ろしさを伝えようとする被爆者の方々の平和への強い願いを感じることができました。

2つ目はこの恐ろしい歴史が今まさに繰り返されようとしているということです。終わりの見えないウクライナ戦争では核兵器が使用されてもおかしくない状況が続いています。ニュースを見るたびに平和祈念式典で長崎市長が

「長崎を最後の被爆地にするために」

とお話していたことを思い出します。そして被爆者代表の方からのお話も含めて、あの惨劇を繰り返してはならないという思いを強くしています。

原爆の恐ろしさは物理的な被害だけではなく、精神的な部分にあると思いました。壊れてしまった土地や建物は直すことができます。ですが人の体や心は簡単に治すことができないのだと今回学ぶことができました。原爆や戦争を経験したことがない私たちは、当時のことについてすべてを理解することはできないと考えています。それでも学び、つたえていこうとすることがよりよい未来を築く第一歩なのではないかと思いました。今回の経験を活かして身近な争いからなくして行ければと思います。

最後に原爆犠牲者の方々のご冥福と、これからの生活が被爆者のみなさまにとってより良いものになることを願っています。



「平和について私が考えたこと」

私は8月7日から8月10日にかけて、浦安市平和学習青少年派遣事業に参加し長崎県へ訪問した。

8月9日に参席した長崎平和祈念式典で、岸田総理が言っていた「平和」とは。「戦争」とは。なんだろう。という漠然どうしたテーマに対して、難しいで済ませるのではなく、私は知ろうから始めることにした。



原爆は1945年8月9日木曜日のよく晴れた午前11時2分に長崎県へ投下され、約7万4千人が亡くなった。私のひいひいおばあちゃんは自宅がある山の上からキノコ雲を見たそう。一瞬にして家族が奪われてしまった赤ちゃんもいた。今回、被爆体験講話でお話を伺うことができた、当時11歳だった松尾幸子さんそのひとりだ。家族の無残な姿を見てしまったその日から。壮絶な人生を歩んできたそう。

広島県原爆ドーム、旧海軍司令部壕へ実際に家族と足を運んだ。私はそこで見た現実とは、熱線と爆風を浴びてほとんど破壊された建物、被爆された方々の痛ましい写真ひんやりとジメジメした地下に掘られた道や壁一面弾丸のあとの部屋。胸が締め付けられた。私の今の生活のありがたさや、命の尊さに気づくことができた。

長崎原爆資料館では、被爆して今でも後遺症と争いながら生きている方がいることを学んだ。79年経った今もなお、病院へ通い続けている方もいる。この一年間に亡くなった被爆者などの名前が書き加えられた原爆死没名簿が式典で奉安箱に納められた。

戦争が起こらないことだけが平和なのだろうか。戦争は歴史の一部ではない。私は今しか生きられないこの時に、友達や家族を大切にしなければならぬ。そして、目の前に居るその人に幸せを伝えよう。そういった何気ない人と人との関わりが平和につながっていくのではないだろうか。

「長崎から学ぶ平和の大切さ」

まず初めに、浦安市平和学習青少年派遣事業に参加させていただきありがとうございました。最初のオリエンテーション、すごく不安でした。私の周りの人はみな生徒会に入っていたり、すごい成績を取っていたりしてここでやっていけるかなと思っていました。ですが同じ班の人たちと話してみるとすごく人柄がよく、とても優しく笑顔で接してくれて本当に心強かったです。



それではわたしが長崎にいき、おもった、感じたことを紹介します。わたしは小学6年生に修学旅行で広島へ行きました。そこでは初めて知る原爆のことや原爆によってつらい思いをした人々の思いを資料館で見させていただきました。私は当時すごく辛い気持ちになりました。「こんなことがこれから先あってはならない」と思いそこから戦争、平和の大切さについてもっと知りたいとおもうようになりました。実際に長崎にいく前、わたしは原爆のことを結構理解していると思っていました。ですが長崎にしてみると広島とはちがう被害だったり、人々の想いがちがいました。どれだけわたしは無知だったのだろうと気付かされました。悔しかったです。

長崎にいき、特に印象に残った二つのことを紹介します。まず一つ目は、平和祈念像です。長崎にいく以前から平和祈念像があることを知っていましたが、意味は全く知りませんでした。天を指した右手に“原爆の脅威”、水平に伸ばした左手に“平和”、軽く閉じた瞼に“原爆犠牲者の冥福を祈る”と言った意味がこめられていました。この意味は今でも忘れません。

次に二つ目は青少年ピースフォーラムです。ここでは全国からきたいろいろな人たちが長崎に集まり、平和について話し合うことができます。一日目は夜にあつまり、みんなで楽しく夜ご飯を食べて交流を深め合いました。二日目では出島メッセ長崎に集い、平和についてもっと深く話し合い、平和な世界にしていこうためにはどうするべきか付箋などを使って仲間分けしたりわかりやすく話し合いを進めることができました。

私はこの派遣事業で学んだことは平和は自分たちが動かなければ続かないということです。今の当たり前な生活を当たり前だとは思わずに、時には長崎、広島で学んだことを思い出しながらこれから生きていこうとおもいます。私の願いはこれから先被爆者を絶対に出さないということです。

「平和の正解」

私たちは平和学習青少年派遣事業に参加し、平和の尊さを学習するために一つの被爆地である長崎県を訪ねました。

私はこの長崎に行ってから戦争に対する自分の意識も、平和についての考え方も何もかもが大きく変化しました。この平和学習は私にとって人生にかかわる大切なことを学ぶことができた、そんな大切な経験の一つになりました。

今回は新しく学びを得ることができたものを一つ紹介します。

それは被爆体験講話です。

実際に原爆を体験した方のお話を聞くのは本当に初めてでした。講話をしてくれた松尾さんは当時今の私よりも幼い小学5年生だったそうです。この平和学習を行った今日8月9日の丁度79年前のあの頃、「家族はみんな死んでしまって友達も生きているのかわからないそんな状況で、道かもわからない大地に山のように重なった死体をただ眺めるだけ」そんな日だったと言っていました。このお話を聞いて私は、自分がもしこの時に小学5年生だったらどうなっていたのだろうと考えました。例え生きていたとしても友達も家族もいない状況に孤独を感じ、戻ってこない平和な生活をずっと引きずり生涯を生きていくそんな人生は送りたいくないし、このつらさに途中で耐えられなくなると思います。

だから戦争をなくすためにずっと原爆の恐ろしさを伝えてきた松尾さんの強さに感動するとともに自分のふがいなさを感じました。

私は“戦争を体験したことがない平和”な日をおくっています。ですが、私はよく日々のちょっとしたストレスやトラブルによるつらさに耐えられなくなってしまうことがあります。この、ひとりで生きていけない心の弱さは私の弱みです。「もしもこれから戦争が起こってしまったら一人で生きていけるのだろうか」そう不安に感じるのがこの被爆体験講話を聞いてから多くなりました。この疑問は実際に戦争を体験するほかに答えはないと私は思います。だからこそ私は今の生活と日々にありがたさを感じもっと大切にしよう、そう決心することができました。そして被爆体験講話を聞く前の自分とは大きく意識が変わり次への気づきへと近づくことができました。



最後にこの平和学習を通していくうちにどんどん深まっていった疑問があります。それは、「平和とは何なのか」です。この問いは私たちが長崎に行く前に話し合った話題の一つでした。その時私は「戦争が起こらないこと」そう考えていたと思います。ですが長崎での学習を通して“平和とは何か”それがとても難しいことに気づきました。今でもはっきりとした答えは見つけられていません。でもそれがいいことだと思います。“一人一人の色々な平和”がすべて正解なのだと私は思います。

私にとっての平和ができてみんなにとっての平和が叶うそんな素敵な世界をいつか実現できたらいいなと感じました。

「平和は私たちがつなげる」

私たちは八月七日から十日にかけて平和使節団として被爆地である長崎市を訪問しました。

私がこの事業に参加したきっかけは、以前広島に住む親戚から当時の話を聞いていたことです。広島で原爆が投下されたことは知っていたけれど、長崎にも同じように原爆が投下され被害を受けたことに衝撃を受け、現地でしか感じとれない長崎の情景を知りたいと思ったからです。

長崎では、原爆資料館や原爆落下中心地周辺を見学しました。学習していく中で強く印象に残ったことが二つあります。一つ目は原爆資料館を見学したことです。当時の長崎の町の悲惨な風景や人々が黒焦げとなった姿、背中一面に熱傷を受ける少年、爆風で一本柱になった鳥居などが展示されていました。何枚もある写真の中で目に止まったのは、幼い子どもを背中に背負いながら焼き場を見つめる「原爆の地に立つ少年」です。お母さんに会えない寂しさや、戦争に立ち向かう姿を見て戦争とはどんなに怖いものかということを感じました。

二つ目は全国から集まった平和使節団の方々と、ケンカや戦争をなくすにはどうすれば良いかということたくさん話し合ったことです。そこでは「話し合う」「相手の意見も聞く」「自己中心的にならない」などお互いを分かり合うために大切なことを学びました。

私にとって「戦争」は身近ではなかったけれど、長崎に行ったことで戦時下の生活の厳しさ、戦後の激しい被害や人々の苦しみをあらためて知ることができ戦争への思いが大きく変わりました。私たちは普段の幸せを当たり前と思わず、今ある平和を守り、「戦争はしてはいけない」ということを後世に伝えるべきだと強く感じました。だから私たち使節団は「長崎を最後の被爆地に」とたくさんの人に呼びかけていきたいと思います。



「平和な世界のために」

私がこの事業に参加するにあたっての目標は、被爆の実態と平和の大切さを学び、自分自身の生活に繋げることでした。平和祈念式典や被爆者の方による被爆体験講話に参加することで、原爆について詳しく知り、普段なかなかできない貴重な体験ができました。テレビや教科書で見た時と比べ物にならないほどの原子爆弾の恐ろしさを感じました。



平和の意味や当時の様子などたくさんのことを長崎で学びましたが、私が特に印象に残ったのは原爆資料館です。実際に原爆資料館に行き、当時の写真や展示物から改めて戦争の悲惨さ、平和の大切さを学びました。そして、戦争の残酷さと悲惨さを肌で感じました。

特に私は、原爆資料館で見た、目の前で家族が赤く燃えている様子、「ままとばばに会いたい」という言葉一つ一つが、頭に残りました。今まで、当たり前のように幸せに過ごせていた家族が、ひとつの原子爆弾によって一瞬で崩れたり、後遺症によってその後も苦しみながらの生活を強いられたりする様子を想像すると胸が張り裂けるような気持ちになりました。また、弟の遺体を背負い歩き続ける兄の写真を見て、私はどんなに辛くても進み続ける兄の姿に言葉で表現出来ないほどの気持ちになりました。それと同時に、このような悲劇を、二度と繰り返してはならないと強く実感しました。

私は、自分の中で、長崎で学んだ平和の大切さや思いやりの心を自分の生活に活かせるようにしたいと思っています。この感情は、被爆者の方の話を直接聞き、平和祈念式典に参加して被爆建造物などを実際に自分の目で見なければより深く生まれなかったと思います。そして今、世界では未だに様々な地域で戦争や紛争が起きています。これ以上、戦争による悲劇を無くすためにも、私は長崎で見聞きし得た体験を少しでも多くの人々に伝え、平和の輪を広げていき、平和の未来を自分たちの手で作り上げていきたいと思っています。

まず平和な未来への1歩として、長崎平和学習を通して他県の中学生や同じ浦安市の中学生と仲を深めることができました。

今後も自分に出来ることを精一杯行い、役目を果たしていきたいです。

核兵器のない、平和で溢れる世界を願っています。

「真の平和の大切さ」

私は今回、浦安市平和使節団として4日間、長崎を訪問しました。そこではとても深く原爆の怖さ、そして真の平和の大切さについて学ぶことができました。

私はこの事業に参加するまで、戦争や原爆などへの恐怖心が強く、それらについてあまり関わりたくないと思っていました。ですが、今回の経験を通して、戦争や原爆のイメージが私の中で大きく変わりました。もちろん戦争や原爆はとても怖いものです。ですが、それらを深く知ることによって真の平和の大切さを知る第1歩になるのではないかと感じました。私が特に原爆や平和などについて理解が深められたのは、平和公園周辺でのフィールドワークと原爆資料館の見学、そして青少年ピースフォーラムでの平和学習の3つです。

まず、フィールドワークでは実際に建物を見学することに加え、平和案内人さんによる説明があり、原爆による人々の生活や建物の被害などを目の当たりにすることができました。

次に原爆資料館では映像や資料をもとに理解を深めることができました。私は実際の原子爆弾の模型を見てから、その大きさが今もずっと脳裏に焼きついていきます。それはとても大きく、実際に長崎の町に落ちたこと考えるとゾッとしました。

そして平和学習では、様々な地方の仲間と平和や戦争についての意見交換をし、自分にはない考えに気づくことができ、考えの幅を広げることができました。

このように4日間だけでも沢山の事を学び、自分のそれまでの知識の少なさに驚きました。私は今まで戦争や原子爆弾は「とても恐ろしいものだから、絶対にやってはいけないし、使ってはいけない」ということしかわかっていませんでした。これは大事なことです。ただそれだけでは真の平和の大切さに気づくことができないと感じました。私の周りにも、私のようにまだまだ深くを知らない人達がたくさんいると思います。だからこそ、そのような人達に伝えていくのが私たちの役目です。少しずつでもたくさんの人に伝え、真の平和の大切さに気づいて欲しいと思います。



非核平和都市宣言

真の恒久平和は人類共通の願いである。しかしながら、核軍備の拡張は依然として続けられ、世界平和に深刻な脅威をもたらしていることは、全人類のひとしく憂えるところである。

わが国は、世界唯一の核被爆国として、また平和憲法の本質からも、再びあの広島・長崎の惨禍を絶対に繰り返させてはならない。

私たち浦安市民は、日本国憲法に掲げられた恒久平和主義の理念のもとで“緑あふれる海浜都市”づくりを進めており、その実現もまた平和なくしてはあり得ない。

私たち浦安市民は、被爆40周年の節目にあたるこの機会に、非核三原則が完全に実施されることを願いつつ、すべての核兵器保有国及び将来核兵器を所有しようとする国に対し核兵器の完全禁止と廃絶を希求し、世界の恒久平和確立のため、ここに「非核平和都市」となることを宣言する。

昭和60年3月29日

千葉県浦安市